

## 平成30年度森林・林業白書の作成方針（案）

## 1. 白書の構成

## (1) 「平成30年度森林及び林業の動向」

## (ア) トピックス

白書の冒頭で、平成30年度における森林・林業に関する特徴的な動きを抜粋して紹介・解説する。

## (イ) 特集章

第Ⅰ章を特集章とし、特定のテーマについて詳細な分析等を行う。

## (ウ) 通常章

第Ⅱ章以降は、「森林の整備・保全」、「林業と山村（中山間地域）」、「木材産業と木材利用」、「国有林野の管理経営」、「東日本大震災からの復興」の章立てとし、森林・林業全般について現状・課題の分析等を行う。

## (2) 「平成30年度に講じた森林及び林業施策」、「平成31年度に講じようとする森林及び林業施策」

現行の「森林・林業基本計画」（平成28年5月閣議決定）を踏まえた項目立てとする。

## 2. 特集章のテーマ

現在の我が国の森林は、戦後造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎え、豊富な森林資源を循環利用することが重要な課題となっており、本年6月に公布された「森林経営管理法」等に基づき、適切な経営管理が行われていない森林を、意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化するとともに、それができない森林の経営管理を市町村が行うことで、森林の経営管理を確保し、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることとしている。

このためには、森林の経営管理の集積・集約化を進める人材や、意欲と能力のある林業経営者が更に多くの森林の管理経営を担うことができ

るよう、より大規模かつ効率的な林業経営を実施したり生産された丸太等をスムーズに流通させるための人材が必要になってくるところである。

これを受けて、「平成30年度森林・林業白書」の特集章のテーマを、「新たな森林管理システムを支える人材（仮称）」とし、森林総合監理士（フォレスター）や森林施業プランナーなど森林の経営管理により広い視点から関わる人材や、主伐や再造林、保育といった現場作業をより効率的に行うことのできる人材、川下の木材流通に関わる人材等について、それぞれがおかれた現状と、国有林野事業や林業大学校等による教育・研修との連携も含めた、今後の育成の方向性等について整理することとする。

### 3. 今後の予定

今回を含め計3回の施策部会で検討を重ねていただき、林政審議会での諮問・答申を経て、来年5月の閣議決定・公表を目指す。（別添）

（以上）

(別添)

## 平成30年度森林・林業白書のスケジュール（案）

- 本年 8月27日 第1回施策部会
- ・ 作成方針（案）の検討
- 11月 第2回施策部会
- ・ 平成30年度森林及び林業の動向  
（構成（案）、主要記述事項（案））
- 来年 2月 第3回施策部会
- ・ 平成30年度森林及び林業の動向（原案）
  - ・ 平成31年度森林及び林業施策（原案）
- 4月 林政審議会
- ・ 平成30年度森林及び林業の動向（案）
  - ・ 平成31年度森林及び林業施策（案）  
（諮問・答申）
- 5月 閣議決定・国会提出・公表

(参考 1)

◎森林・林業基本法（昭和三十九年法律第六十一号）（抄）

（森林及び林業の動向に関する年次報告等）

第十条 政府は、毎年、国会に、森林及び林業の動向並びに政府が森林及び林業に関して講じた施策に関する報告をしなければならない。

2 政府は、毎年、前項の報告に係る森林及び林業の動向を考慮して講じようとする施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。

3 政府は、前項の講じようとする施策を明らかにした文書を作成するには、林政審議会の意見を聴かなければならない。

## 森林・林業白書の特集の内容（過去10年）

年度	テーマ名・内容
平成20年度	【地球温暖化防止】低炭素社会を創る森林 地球温暖化の状況と地球温暖化防止に果たす森林の役割を紹介。地球温暖化防止に向けた取組や低炭素社会の実現に向けた取組について記述。
21年度	【林業】林業再生に向けた生産性向上の取組 林業の生産性向上に向けた取組の現状と課題、今後の方向性等について記述。
22年度	【木材】木材の需要拡大—新たな「木の文化」を目指して 木材需要拡大の背景とこれまでの取組を整理。公共建築物の木造化、木質バイオマスのエネルギー利用、木材輸出の3点に焦点を当てて、最新の動向について記述。
23年度	【震災復興】東日本大震災からの復旧・復興に向けて 東日本大震災による森林・林業・木材産業の被害状況・復旧状況を紹介。海岸防災林の復旧・再生、新たなまちづくりに向けた木材の活用、エネルギー安定供給に向けた木質バイオマスの活用、原子力災害からの復興について記述。
24年度	【森林・林業】森林・林業の再生と国有林 森林・林業の再生に向けて進めている取組を整理。国有林野事業の今後の展開方向について紹介。
25年度	【森林】森林の多面的機能と我が国の森林整備 森林の多面的機能の発揮に果たす森林整備の役割について記述。我が国の森林整備を巡る歴史を振り返り、森林整備推進のために関係者が果たすべき役割など今後の課題を整理。
26年度	【木材産業】森林資源の循環利用を担う木材産業 木材産業の役割と概要等について記述。我が国の戦後の木材需給の変遷と木材産業の対応を振り返り、木材産業をめぐる最近の動向と将来に向けて取り組むべき課題を整理。
27年度	【林業】国産材の安定供給体制の構築に向けて 人工林資源の充実や国産材需給の現状について分析し、国産材の安定供給体制の構築に向けた取組の現状や今後の課題について、「原木の供給力の増大」と「木材等の需給情報の共有と原木供給のとりまとめ」に分けて整理。
28年度	【技術導入】成長産業化に向けた新たな技術の導入 林業の成長産業化を図る上で基礎となる新たな技術について、「林業の生産性向上のための技術」「情報通信技術（ICT）の活用」「木材需要の拡大に向けた技術」「花粉の発生を抑える技術」の4つに分けて、導入状況やその成果と課題等を整理。
29年度	【制度】新たな森林管理システムの構築 意欲と能力のある林業経営者への林業経営の集積・集約化と、経済ベースに乗らない森林の管理を市町村が進める「新たな森林管理システム」の構築の方向性について、我が国林業の構造的な課題を欧州の代表的な林業国であるオーストリアとの比較により明らかにしながら記述。

## これまでの森林・林業白書（林業白書）の特集について

年度	テーマ名
昭和47年度	国民生活と森林・林業、国有林野事業の課題
48年度	森林資源をめぐる課題
49年度	林業の発展と山村地域の課題
50年度	林業の発展と林家の課題
51年度	林業の地域的発展をめぐる課題
52年度	木材需給と林業発展の課題
53年度	林業の発展と森林資源の整備をめぐる課題
54年度	地域林業の担い手育成をめぐる課題
55年度	木材需給構造の変化と流通加工部門の対応
56年度	林業経営の現状と林業発展の課題
57年度	森林管理の現状と緑資源確保の確保
58年度	林政の推進と国有林野
59年度	国産材時代への挑戦
60年度	森林資源整備の新たな展開を目指して
61年度	試練にたつ日本林業とその活力回復に向けて
62年度	新たな林業技術体系の構築
63年度	豊かな国民生活のための森林づくり
平成元年度	国民のニーズにこたえる木材の供給と国内森林資源の有効活用
2年度	森林管理とその担い手のあり方
3年度	森林の管理と山村の活性化
4年度	地球環境を守る森林・林業
5年度	森林と木の時代を目指して
6年度	森林文化の新たな展開を目指して
7年度	林業、木材産業の活性化に向けて
8年度	木材の消費・流通構造と国産材供給の課題
9年度	国有林野事業の抜本的改革
10年度	木材の利用推進と森林の適切な整備
11年度	世紀を超えた森林整備の推進
12年度	これまでの林政の推移と新たな基本政策の方向
13年度	森林と国民との新たな関係の創造に向けて
14年度	世界の森林の動向と我が国の森林整備の方向
15年度	新たな「木の時代」を目指して
16年度	次世代へと森林を活かし続けるために
17年度	国民全体で支える森林
18年度	健全な森林を育てる力強い林業・木材産業を目指して
19年度	林業の新たな挑戦
20年度	低炭素社会を創る森林
21年度	林業再生に向けた生産性向上の取組
22年度	木材の需要拡大ー新たな「木の文化」を目指して
23年度	東日本大震災からの復旧・復興に向けて
24年度	森林・林業の再生と国有林
25年度	森林の多面的機能と我が国の森林整備
26年度	森林資源の循環利用を担う木材産業
27年度	国産材の安定供給体制の構築に向けて
28年度	成長産業化に向けた新たな技術の導入
29年度	新たな森林管理システムの構築

注：特集は昭和47年度から掲載